

イエメン対岸にあるジブチの難民キャンプの子ども

危機的状況にあるイエメン紛争下の子どもたち

<紛争地のこどもたち：事務局長井川からのレポート>

2015年9月、シリア難民の子どもの遺体がトルコの海岸に打ち上げられた写真は、世界中に衝撃を与えました。これ以降、日本に住む私たちの周りにもシリア関連のニュースが溢れています。一方、同じ中東にあり、「最貧国」と言われるイエメンで起きている紛争について、どれ程の人が知っているでしょうか。イエメンでは、政府側と反政府側の武装勢力同士が戦闘を繰り返していき、更にそこに外部からの介入やイスラム過激派系の武装勢力、地域の部族勢力などが加わり、出口の見えない紛争が続いています。2015年3月～12月の間だけでも、約6,000人が殺害され、約2万8,000人が負傷、250万人以上が住処を追われ、国連もイエメンの状況をイラクやシリアと同じ「最悪レベルの人道危機」に認定しています。

アイキャンのミッションは、「できることを持ち寄って、子どもたちにとって平和な社会をつくること」です。1994年に設立されて以降、フィリピンの子どもの問題に活動を絞ってきたことで、いくつかの分野で、高い課題解決能力を身に付けることができました。ミッションを実現するために、次の10年では、フィリピンでの活動に加え、培った能力や経験を、他国の人道危機に活かしていくことが重要であると考えています。アイキャンが20年以上取り組んでいるミンダナオも、世界にほとんど知られていない紛争地域でした。イエメンが世界から忘れられている現状は、ミンダナオと通じるものがあります。

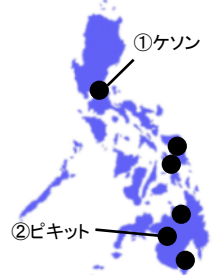
現在、イエメンでは、今回の紛争の影響で、推定人口2,600万人のうち約半数に当たる1,290万人が食糧不足に陥り、栄養失調のリスクにある子どもは180万人を超え、「大規模な飢饉の一手前」にあると言われています。これに対し、アイキャンでは、2月から食料と生活必需品の提供をイエメン国内で開始します。また、現在までに約3万人が対岸のアフリカの国ジブチに命からがら避難しています。本国での空爆の影響で、今でも大きな音を聞くだけで震える子どもたち、また着の身着のまま逃げたため、服も1枚か2枚しか持っていない子どもたちが多くいます。アイキャンでは、キャンプ内に子どもの保護を目的に、「子どもの広場」を運営するとともに、衣服の提供の活動を2月から行っていきます。

私たちは、活動国をやみくもに増やしていくことはしません。フィリピンのように、地域に根を張り、専門性を高め、そこに住む人々と「ともに」長期的に課題を解決していくことが大切だと思っています。



アイキャン事務局長
井川定一（いかわさだかず）
～プロフィール～
1979年生まれ。フィリピン大学地域開発学修士課程を経て、ICANマニラ事務所職員。2007年外務省 NGO 専門調査員を経て、2008年より現職。

Project Site



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定 NPO 法人 アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

【編集者から一言】2～3月に実施するスタディツアーの参加者をまだまだ募集しています。詳細は上記ホームページをご覧ください。

Close up

～12月の活動ハイライト～

全10事業の中から、今回はこちらの2つの活動をご紹介します。

①路上の子どもたち(ケソン)

12月9日

活動や想いを伝える「路上新聞」



協同組合カリエの7名が、「路上新聞」第4号を作成しました。アイキャンやカリエを知らない人にも、カフェや路上教育等の活動や自分たちの想いを伝えるために試行錯誤し、A4版裏表の新聞を完成させました。

エルシーさん(17歳)は、「今後も継続して発行し、路上の子ども達の現状や応援してくれる人への感謝を伝えていきたい」と述べました。新聞は、カフェやマニラ事務所に設置予定です。

②紛争地の子どもたち(ピキット)

12月2～5日

教育関係者が仲裁と対話について学ぶ



教育省の28名を対象に、「仲裁と対話」をテーマにした研修を行い、参加者は、多様性の尊重や適切な感情表現等、「暴力を用いない平和的な解決」に必要な5つの要素を学びました。その後、教育省の各事務所に分かれ、今後の実施計画を作成したところ、スルトンクダラット事務所職員からは、「自分たちの地域でも、学校関係者を対象に『仲裁と対話』の研修を実施する」との意見が挙がりました。

今月の ICAN を増やす活動

語学教室事業

12月19日/名古屋

クリスマス会

チャリティ語学教室「スマイルチケット」の講師や生徒、日本事務局のボランティアの方が集うクリスマス会を開催しました。17名の参加者は、フィリピン料理をはじめ、持ち寄った多国籍な料理を堪能し、英語を交えながら歓談しました。スマイルチケット生徒のAさんは、「他のクラスの人とも会えて、クラスを振り替えた時にも仲良く話せるようになった」と後日話していました。



MY アイキャン事業

12月23～26日/名古屋

4,730部の発送作業!

新しい会報と2014年度の年次報告サマリー版が完成し、会員の方や寄付をしてくださった方への発送作業を行いました。4,730部という膨大な量でしたが、手伝いに来てくださったボランティアの方総勢23名のお陰で、無事年内に発送を終えることができました。23日に初めてボランティアにいられたKさんは、「貴重な体験だった」と言って26日にご友人を連れてまた来てくださいました。



今月の Announcement

書き損じハガキ、今年も集めています!



アイキャンでは、書き損じたハガキや余ってしまった年賀状、52円になる前の古いハガキ等、未投函のハガキを募集しています。ハガキ1枚で、フィリピンでは例えばノート2冊分の価値に相当します。ハガキ以外にも、未使用切手、未使用テレホンカード、商品券も募集していますので、お手元にある方は、ぜひアイキャン日本事務局までご郵送ください。

<ご郵送先> 〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 アイキャン宛

今月の Media

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 12月1日 The Japan Times 日比の子どもの絵手紙交流 | 12月13日 まにら新聞 「子どもの家」の水場完成 |
| 12月1日 まにら新聞 チャリティコンサート開催案内 | 12月17日 読売新聞(名古屋) 「子どもの家」の水場完成 |
| 12月11日 読売新聞(名古屋) 高校生と路上の若者のスカイプ交流 | 12月22日 中日新聞(名古屋) 「子どもの家」の水場完成 |

今月の ICAN なる

◎木野さん、継続的に応援してくださり、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 木野謙治さん

「継続することの大切さ」

東日本大震災の後、何かしたいと思っていた時、勤務先の呼びかけでボランティア活動に参加したのが、アイキャンとの出会いでした。(注:アイキャンは2011～2012年度に宮城県東松島市で活動)その時にアイキャンのスタッフから話を聞いてフィリピンの状況を知ったのですが、それがなければ、フィリピンと繋がることはなかったかもしれません。

そして、2013年の夏にマンスリーパートナーになり、スタディツアーに参加しました。ツアーでは、これまで情報として知ってはいても、遠くて他人事だったフィリピンの状況を目の当たりにし、垣根を越えて交流したいと思いました。ツアー4日目の遠足で自分のパートナーになった二人の子がどうしているか、今も気になっています。加えて、現地の状況の変化も見たいし、頑張っているスタッフにも会いたいです。今夏にでも2回目の訪問をしたいと思っています。前回の訪問時、「決して忘れない、また来る」と言って別れましたが、言葉通り、1回行って終わりではなく、継続することが大事だと思っています。フィリピンの子どもたちには、くじけず頑張してほしいと思いますし、最近オープンしたパン屋の成功も祈っています。

インタビュー:1月9日

